

船舶事故等調査報告書

平成22年9月30日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等番号	2010広第69号	
事故等種類	乗揚	
発生日時	平成22年2月7日 12時10分ごろ	
発生場所	香川県小豆島町福田湾 福田港北1号防波堤灯台から真方位143° 750m付近（概位 北緯34° 32.1′ 東経134° 21.4′）	
事故等調査の経過	平成22年5月12日、本事故の調査を担当する主管調査官（広島事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。	
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等	A 押船 第七 ^{めいゆう} 明友丸、19トン 273-9101（船舶検査済票の番号）、株式会社田中海事 B 起重機船 第八 ^{めいゆう} 明友号、長さ43m×幅16m なし、株式会社田中海事	
乗組員等に関する情報	船長、一級小型船舶操縦士	
死傷者等	なし	
損傷	A プロペラ翼に曲損	
事故等の経過	A船は、福田湾で、船長ほか4人が乗り組み、船首、船尾とも約2.3mの喫水で、採石約400トンを積載し、スパット1本を海底に下ろした状態のB船を押して出航しようとして旋回中、平成22年2月7日12時10分ごろ浅瀬にプロペラが接触した。	
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 南、風力 1、視界 良好 海象：潮汐 低潮時、潮高 約1.2m	
分析	乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	あり なし なし A船は、B船を押して福田湾で旋回中、ふだんよりもA船の船尾が陸岸に接近していた可能性があると考えられる。 船長は、潮高を考慮した付近海域の水深を把握していなかった可能性があると考えられる。
原因	本事故は、A船が、B船を押して福田湾で旋回中、陸岸に接近していたため、A船のプロペラが浅瀬に接触したことにより発生した可能性があると考えられる。	